

笹川日仏財団

活動報告 2016-2017

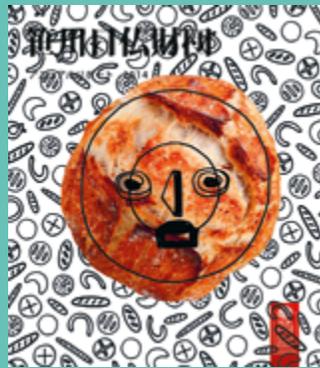


笹川日仏財団



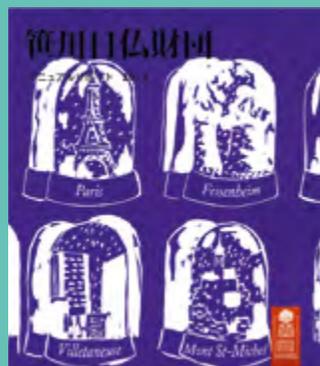
TIPHAINE BUHOT-LAUNAY ・ ティファニー ・ ビュオ=ロネー
Tiphaine Buhot-Launay a suivi un cursus professionnel en graphisme, puis s'est spécialisée en typographie à l'École Estienne. Elle termine cette année sa formation à l'EnsAD. Passionnée d'artisanat, elle s'est formée pendant six mois à l'art traditionnel turc à Istanbul.

グラフィック・デザイン職業課程を履修した後、エコール・エスティエンヌでタイポグラフィを専攻。2017年バリのアール・デコを卒業。工芸への情熱から、イスタンブールで6か月間トルコの伝統芸術を学んだ。



LAURA ALBRIER ・ ローラ ・ アルブリエ
Laura Albrier a intégré le département d'Image imprimée de l'EnsAD en 2011 où elle développe une pratique de dessin et de l'édition associée aux techniques d'impression de la sérigraphie et de la gravure.

ENSADのイメージ・アンブリメ科に2011年に入学。シルクスクリーンや版画といった印刷技術に深く関わるデッサンの技法と編集を学んだ。



CAROLINE BIZIEN ・ カロリーヌ ・ バンジアン
Caroline Bizien a intégré l'EnsAD de Paris après une année de classe préparatoire aux Ateliers de Sèvres. Dans le secteur Image imprimée de l'EnsAD, elle développe une pratique de dessin indissociable des techniques d'impression traditionnelles (gravure, sérigraphie...). Suite à une année d'échange à la School of the Art Institute of Chicago (SAIC) où elle suit notamment les cours de l'auteur de BD Chris Ware, elle décide de s'orienter vers la littérature jeunesse.

アトリエ・ドゥ・セーブルの準備学級（1年間）を経て、アール・デコに入学。同校のイメージ・アンブリメ科にて、版画やシルクスクリーンなど従来の印刷テクニックと切っても切り離せないデッサンを学ぶ。シカゴ美術館附属美術大学（SAIC）に1年間交換留学をし、漫画家クリス・ウェアの授業などを受けた後、児童文学へ進むことを決定。



橋爪佑莉 ・ YURI HASHIZUME
Son œuvre illustre sur un cube blanc trois *kumadori* (maquillage de scène de Kabuki) dont le groupe de rock américain Kiss s'est inspiré. Après avoir terminé ses études à l'Université des Arts de Kyôto, elle travaille pour devenir maquilleuse artistique.

今回の作品では、アメリカのロックグループKISSもインスピレーションを得た、歌舞伎の隈取を白い立方体に施した。京都市立芸術大学卒業後は、メイクアップアーティストを目指して勉強している。



橋爪佑莉 ・ KANJI KOBAYASHI
Il dessine de façon humoristique des fantômes et des monstres typiquement japonais tels que *Rokurokubi*, *Yamata-no-Orochi*, et autres. Actuellement, il travaille comme gamedesigner chez un grand éditeur de jeux vidéo.

ろくろっ首やヤマタノオロチなど、日本独特の妖怪や化物文化をユーモアが溢れるように描いた。現在は大手ゲーム会社のデザイナーとして日々奮闘中。



橋爪佑莉 ・ ERI SUZAKI
Elle montre dans son œuvre un *osechi* (assortiment de plats traditionnels du Nouvel An japonais) qui n'est pas encore très connu en dehors du Japon et des motifs traditionnels japonais. Elle est actuellement dessinatrice dans une grande entreprise d'imprimerie.

本作品は、海外ではまだあまり知られていないが、日本のお正月に欠かせないおせち料理を日本の伝統文様を取り入れながら表したもの。現在は、大手印刷会社のデザイナーとして頑張っている。

笹川日仏財団

活動報告 2016-2017



笹川日仏財団



南仏エフルッシー・ド・ロートシルト（ロスチャイルド）邸のフランス式庭園



理事長ご挨拶

日本とフランスの友好関係160周年を記念する本年、当財団の2016-2017年の活動報告をここにご紹介することができ、誠に嬉しく存じます。

この2年間、われわれの財団は常にその使命を全うし、プロジェクト95件、事業総額865,779ユーロの支援を行うことができました。

しかしこのように数字をあげるだけでは意味がありません。本報告書をお読みいただければ、当財団が支援したプロジェクトの質がいかに高く、また多様性に富んでいるかを存分におわかりいただけるかと思えます。

不安定な国際情勢にあって、将来は不確定要素に満ちています。そのような中、ますます確信を持って言えるのは、われわれの掲げる使命がいかに適切であるかということです。私にとってはダイナミックな日仏関係こそが希望を持つことのできる大きな理由です。なぜなら、われわれの理事会メンバーそれぞれが明確な意識を持っていること、各プロジェクトの背後には出会いと交流、分かち合いを求め情熱を持って活動している女性や男性の一人一人、即ち、芸術家や科学者や作家やスポーツ関係者などがいることを知っているからです。

日本とフランスはともに何百年もの文化を持つことで知られ、重要な位置を占める国です。その証左として文化事業がプロジェクトの多くを占めているのだ、と考える向きもありましょう。しかしながら、われわれ両国は文化に関連しない分野—学術、サイ

エンス、技術、人文、政治、防衛、国際協力—においても、長年にわたり多くの実り多い関係を築いてきました。

われわれの財団は文化事業しか支援できないあるいは支援したくないなどは全く考えていません。この機会に決してそうではないとはっきり申し上げることをお許し頂きたいと思えます。新しい技術の開発や研究、国際協力などの分野は多くの場合大きな資金的手段を要しますが、人的手段もまた欠かすことのできないリソースとなります。従って、人類に資するような大胆なプロジェクトが展開できるよう異なる世代間の日仏交流を応援していくこと、特に若者に目を向けていくことは、当財団の今日的活動の中でも優先されるべき側面の一つなのです。

このメッセージを締めくくるにあたり、パリ国立高等装飾美術学校（アール・デコ）と京都市立芸術大学の学生諸氏のアートワークと創造性に対し、謝意を表したいと思えます。おかげでこの報告書を素晴らしい表紙で飾ることができましたことを誇らしく思えます。

最後になりましたが、常に率先して貴重な時間を割き、日仏関係の発展を助けてくれている当財団の日本およびフランスの理事に感謝を申し上げます。

理事長
富永重厚

理事会

2016年4月11日

名誉会長
笹川陽平
日本財団会長

名誉理事
マリーズ・オラニョン
アフィニス社代表取締役

執行委員会

理事長
富永重厚
STICジャパン代表取締役

副理事長
ジャン=ベルナル・ウーヴリユー
元駐日フランス大使

幹事
イブ・ルツセ=ルアール
メネルブ名誉市長
元フランス下院議員

監査役
ジョルジュ=クリスチャン・シャゾ
パリ・サン・ジョゼフ病院グループ会長

副監査役
渡辺昌俊
日本バスツール協会会長

理事

ビエール ボードリ
エス・ビー・エイ株式会社代表取締役

ダニエル・ラリエ
コンサルタント
元財政総監査官

ジャン=マリ・ブイス
歴史学者、日本研究者
2016年4月11日理事会にて辞任

オリビエ・ジェルマン=トマ
作家

早間玲子
フランス共和国建築家協会名誉会員
パリ日本文化会館運営審議会委員

オードレー・アズレー
フランス文化・通信大臣
フランス文化・通信省代表
フルール・ベルランの後任として就任

松浦晃一郎
元ユネスコ事務局長
パリ日本文化会館運営審議会共同議長

高木雄次
笹川平和財団顧問

田南立也
日本財団常務理事

渡邊啓貴
東京外国語大学国際関係研究所所長
日仏会館評議員

2017年10月16日

名誉会長
笹川陽平
日本財団会長

名誉理事
マリーズ・オラニョン
アフィニス社代表取締役

執行委員会

理事長
富永重厚
STICジャパン代表取締役

副理事長
ジャン=ベルナル・ウーヴリユー
元駐日フランス大使

幹事
イブ・ルツセ=ルアール
メネルブ名誉市長
元フランス下院議員

監査役
ジョルジュ=クリスチャン・シャゾ
パリ・サン・ジョゼフ病院グループ会長

副監査役
渡辺昌俊
日本バスツール協会会長

理事

ビエール ボードリ
エス・ビー・エイ株式会社代表取締役

アラン・ブドゥ
大学教授、ボルドー大学名誉理事長
2017年10月16日理事会にて
ジャン=マリー・ブイスの後任として就任

オリビエ・ジェルマン=トマ
作家

早間玲子
フランス共和国建築家協会名誉会員
パリ日本文化会館運営審議会委員

権沢一朗
日本財団常務理事

ダニエル・ラリエ
コンサルタント
元財政総監査官

松浦晃一郎
元ユネスコ事務局長
パリ日本文化会館運営審議会共同議長

フランソワーズ・ニセン
フランス文化・通信大臣
フランス文化・通信省代表
オードレー・アズレーの後任として就任

田南立也
日本財団特別顧問

渡邊啓貴
東京外国語大学国際関係研究所所長
日仏会館評議員

笹川日仏財団

1990年3月23日付政令により
公益財団法人として認可

- 民間
- 非営利
- フランス法人

基本財産

- 日本財団（旧日本船舶振興会）からフランスへ**30億円（1990年当時は1億3,200万フラン）**が拠出
- 基本財産からの運用収入のみで活動

財団の会計報告

- 専門の会計士によって作成
- 公認会計士によって毎年監査
- フランス内務省、外務省、文化省、パリ市に提出

その他の財団

アメリカ合衆国やスカンジナビア、イギリスにも同様の財団が設立

ミッション

日本とフランスとの友好及び文化関係を発展させること

理事会

- 15名の理事 — フランス人8名、内1名はフランス文化大臣あるいは同省代表、及び日本人7名
- 年2回の理事会

プロジェクト

- 日仏関係のあらゆる分野で活動
- 設立以来、芸術や文化、技芸、科学技術、学術、教育、講演、出版、コミュニケーション、メディアなど、多岐にわたる分野で879件のプロジェクトを支援
- 長期的なネットワークの構築と発展に繋がるようなアクションを促進

パリ本部と東京事務局

- 財団本部の所在地はパリ
- 東京の事務局は日本から出されたプロジェクトの企画、管理を実施



財団の代表的なプロジェクト

仙台藩伊達家の霊屋「瑞鳳殿」(部分)



シンポジウム「クロード・レヴィ=ストロースと日本」

2016年6月25日(土) 於フランス国立ギメ東洋美術館

2011年4月、レヴィ=ストロースの遺著『月の裏側 日本文化への視角』(川田順造訳、2014年7月出版)がフランスで刊行され、それまであまり知られていなかったレヴィ=ストロースの日本への情熱が明らかになった。その情熱は『悲しき熱帯』日本語完訳版の序文に次のように書いていたことからわかる。「それゆえ感情と思考においては、少年時代のすべてと青年時代の一部を、私はフランスでと同じくらい(以上にではないにせよ)日本で過ごした、ということが出来ます」(『月の裏側 日本文化への視角』、p.8)。

レヴィ=ストロースは日本の専門家というわけではなかった。しかし、この本に掲載されているテキスト群は彼の業績の中でも特別な位置を占めていたのだから、これらを用いて日本とフランスの対話を試みることができるのではないかとわれわれはそう考えたのである。



プログラム

川田順造

文化人類学者
東京外国語大学名誉教授
「レヴィ=ストロースが日本について私たちに教えてくれたもの」

港千尋

写真家・映像人類学者
多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授、同大学芸術人類学研究所所員
「縄文文化の認識・理解のためにレヴィ=ストロースがもたらしたこと」

渡辺公三

文化人類学者
立命館大学大学院教授
「『野生の思考』と日本」

フランソワ・ラショー
美術史家・日本仏教史
フランス極東学院研究
ディレクター

「鏡の裏側 - レヴィ=ストロースの日本の芸術解釈」

ジャンヌ・コビー
民俗学者・日本研究
CNRS研究員

「見識のレッスン - 考える素材、味わう素材」



第2回国際シンポジウム 「木質科学と木工芸2016」

2016年9月20日から23日にかけて京都で開催

プログラム

- 9月20日 (火)
京都大学
海外から見た日本の
木造建築および木工芸
- 9月21日 (水)
京都大学
木材利用 その歴史と
新たな展開
- 9月22日 (木)
京都大学
木工芸の課題
公開シンポジウム「木工
芸の技と美の東西交流」
- 9月23日 (金)
アンステイチュ・フランセ
関西
木製楽器とそれに関する
木材の物理的性質

2014年9月8日から12日までモンペリエで開催された第1回大会を受けて、第2回大会は木の研究者や専門家、木を扱う職人を再び集めてそれぞれの経験を共有してもらおうと、京都大学とアンステイチュ・フランセ関西で開催された。

4日間にわたって、「構造」「メカニズム」「成長・老化の過程」などについて、弦楽器製造職人や大工、高級家具職人、修復士、建具職人などが木の研究者たちと情報を交換。

普段は空間も時間も共有しない、工芸と研究という2つの異なった世界でそれぞれの能力と知識を発揮している人々が、話を交わし情報を交換するための場と時を京都で得たのである。

4日間で18本の講演と若手研究者たちによる30本の論文が発表され、さらには日本の職人たちのデモンストレーションも披露された。



アール・デコ (ENSAD= 国立高等装飾美術学校) 学生18人の日本旅行

アール・デコの学生のイニシアチブにより、2017年5月13日から26日まで京都旅行が実現した。アール・デコのイマージュ・アンプリメ科と京都市立芸術大学ヴィジュアル・デザイン学科との15年にわたる定期的で息の長いコラボレーションの延長線上にあるプロジェクトだ。

共同作業の歳月に育まれた協力体制のおかげで、フランス側教員（前田宏とグザヴィエ・パンゴ）と日本側教員（辰巳明久、滝口洋子、船越一郎、山本史）は、首尾一貫したプログラムを共同で組むことができた。テーマは「輪」である。来日前に、日仏の学生たちはソーシャルネットワークを通じてそれぞれの作品を見せ合うなどして交流を行っていた。

来日中、アール・デコの18人の学生は主に京都に滞在し、京都市立芸術大学の施設と設備を利用して作業に取り組んだ。

フランスの学生はそれぞれ日誌をつけることを課されていて、それを滞在最終日に日本側の生徒に披露した。学生たちはまた時間を見つけては京都市内を散策したり、和紙の製作現場や京都国立博物館を訪れたり、書道や茶道体験をしたりした。

両校の提携より、アール・デコの学生は日本発見の旅を実現した。次は日本の学生をパリに受け入れたいと願っている。

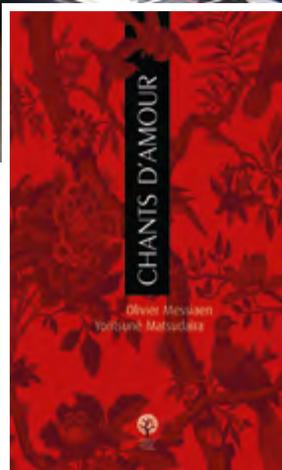
京都市立芸術大学

1880年に設立された京都市立芸術大学は、日本で最も古い大学のひとつで、ヴィジュアル・デザイン学科は、日々の生活の中に取り入れられるためのドローイングやその応用アートを教えている。

アール・デコ (ESAD)

アール・デコは1766年に設立され、あらゆる装飾アート分野で作品制作や研究を構想できるよう、芸術力、科学力、技術力を備えたアーティストやデザイナーを養成することをその使命としている。イマージュ・アンプリメ科のミッションは、デッサン力のあるコンセプト開発クリエイターやイメージクリエイターを育てることである。





コンサート「愛の歌」

2016年5月2日ブッフ・デュ・ノール劇場
コンサート「愛の歌」は大イベントとして財団史に刻まれるであろう。

2016年5月2日夜、奈良ゆみとジェイ・ゴットリーブがブッフ・デュ・ノール劇場という素晴らしい会場を舞台に、フランスで正当な評価を得ているとは言い難い松平頼則と、演奏される機会が非常に稀なメシアンの曲を特別に演奏。観客を魅了した。

なぜこの2人の作曲家が選ばれたのだろうか？ まず、彼らの強く誠実な友情が日本とフランスとの関係の美しい象徴のように思えたからである。二番目の理由として、奈良ゆみがこの2人の作品の歌い手であり、2人がその歌の素晴らしさと繊細さを認めていたからである。

また、日仏友好の印であるこのコンサートの機会に、財団の新しいロゴマークを紹介した。

プログラム

松平頼則

朧月夜に
（《源氏物語》より）

逢ふことの
（《三つのオールドル》より）

君ならで、秋風に、
はつかりの、川の瀬に
（《古今集》より）

朗詠風な幻想
七夕

ラ・グラス
七月の詩

オリヴィエ・メシアン

ハラウィー
愛と死の歌



松平頼則
作曲家

1907年東京生まれ。初期の作品には、ドビュッシーやラヴェル、ブーランク、タンスマン、ストラヴィンスキーの影響が色濃く現れているが、次第に独自の境地を開き、西洋合理主義が極限まで推し進められた表現、セリエル音楽と雅楽を融合させるに至る。2001年10月25日に他界。絶筆となったソプラノとフルートのための「迦陵頻」で、最後の楽章にあたる「急の曲」を完成。この曲は、松平の一周忌に奈良ゆみとピエール・イヴ・アルトールによって上演された。しかし、松平の主な作品はまだまだ埋もれたままのものが多く、演奏の機会が待たれる。



オリヴィエ・メシアン
作曲家

1908年アヴィニオン生まれ。パリのコンセルヴァトワールに11歳で入学。子供時代にカトリック信仰を見出し、古代ギリシャのリズム、エクゾチックなファッション、鳥の鳴き声などと同様に、生涯にわたり創作の深い源泉となる。鳥の鳴き声は其中でも重要な位置を占め、鳥類学者になるだけでなく、松平頼則に日本の鳥の鳴き声の録音を送ってほしいと頼むほどであった。教育もまたメシアンにとって大事な仕事であったことは、彼の授業を受けていた生徒で、のちに有名になった中に、ピエール・ブーレーズ、ピエール・アンリ、ポール・メファノ、ストックハウゼン、クセナキス、ミカエル・レヴィナス、ケント・ナガノ、そして松平頼則が推薦した丹羽明らがいることから分かる。1992年他界。



奈良ゆみ
ソプラノ歌手

ソプラノ歌手。ピエール・ブーレーズ、マリユス・コンスタン、ポール・メファノといった一流指揮者の指揮でラヴェル《シェエラザード》、ドビュッシー《ペレアスとメリザンド》、シェーンベルク《月に憑かれたピエロ》といった20世紀の傑作を歌ったことで国際的に知られる。彼女のために多くの作曲家が曲を書いている。松平頼則もその一人で、奈良ゆみは松平のお気に入りであった。サティやメシアンの歌曲全曲、シェーンベルクの《月に憑かれたピエロ》《ブレッテルリート》、松平頼則作品集、フォーレとデオダ・ド・セヴラックの歌曲を録音。ドビュッシーの歌曲を歌ったCD『Mélodies』で、フランスの雑誌『音楽世界』のCHOC賞を受賞。



ジェイ・ゴットリーブ
ピアニスト

ニューヨーク・タイムズは、彼の「冒険心を持った素晴らしい才能、素晴らしく彩られた演奏、並外れたテクニック」を称賛している。ル・モンドは、「特別なクオリティ、本当の妙技、激烈な、驚異的な音楽家」と評している。ニューヨークに生まれ、ナディア・ブーランジェとオリヴィエ・メシアンに学び、シャルル・クロス・アカデミー・ディスク大賞とディアパゾン金賞を受賞した彼は、アメリカ政府から公式ピアニストに認定され、世界中でアメリカ代表として演奏している。ソリストとしてボストン交響楽団と演奏したり、ニューヨーク交響楽団やパリ管弦楽団のメンバーとして、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭など多くの国際フェスティバルで演奏している。

J'ai toujours eu la plus grande admiration pour les oeuvres de Yoritsuné Matsudaïna, et j'approuve entièrement sa conception si originale du rajeunissement de la musique traditionnelle du "gagaku" et du "Bugaku" japonais, par les moyens qu'ils mettent à notre disposition l'orchestration, la rythmique, et l'harmonie contemporaines. Je me réjouis tout spécialement qu'un concert de l'orchestre NHK soit dédié à ce maître de la musique du 20^e siècle.

Olivier Messiaen
14 juin 1989



イリニ・ジャンノピュリュ博士による自閉症研究の日本での展開（2015-2016年）

2013年、イリニ・ジャンノピュリュ博士から自閉症研究に対する助成の申請が提出され、テーマは興味深かったものの、採択基準を満たしていなかったために一旦不採択とした。

だが、博士の研究には妥当性があり、日仏研究の新たな局面が作られる可能性を感じたことから、博士に会ってその旨を伝え、研究を続けるように奨めたのである。

そして翌年、博士から再び申請をもらった。それはフランスで数年間行ってきた研究プロトコルを日本で2年間実施したい、というものであった。

嬉しいことに、プロジェクトは進化、発展しており、複数の日本の大学が一緒にやってみたいと手を挙げていたのである。

我々はいま、自閉症という難しいテーマを扱った、この独創的かつ難易度の高いプロジェクトに助成できたことをとても幸せに思っている。

イリニ・ジャンノピュリュ博士との対談

貴方のプロジェクトについて教えてください

学際的研究である私たちのプロジェクトは、人の相互コミュニケーションに適応した相互作用ロボットを介して、6歳の健常児と自閉症の子供の情動表現と口頭表現がどのように発露し、向上するかに着目しました。ロボットがいる時といない時に、心拍数と結びついた情動情報が分析され、発言の頻度が計算されました。

貴方の日本のパートナーは

渡辺富夫教授が岡山県立大学工学部でロボット支援システムを開発しています。教授の研究の対象は、「会話」と「発言と身体の動きのリズム」で、例えば会話をしている2人が同時にうなずく、といったことです。

どうして日本で研究をしようと思ったのですか？

招かれたのです。ある講演の際に出会った渡辺教授から、彼の研究室で開発されたロボットを使わないかと提案されたのです。そこで、ロボット工学と認知神経科学の分野における日仏相互理解の推進のために国際協力を発展させようと、私はその好機を受け入れたのです。

フランスと日本の自閉症の子供についての研究で、どのような結論が得られましたか？

フランスでも日本でも非定型発達児は、相互作用ロボットによって、一つの精神状態を作り上げ、それを情動表現や口頭表現といった形で自分の感情を表現することが出来たかのような結果となりました。そのことは、ロボットが子供の脳の働きを改善させる可能性を持つ「神経補装具¹⁾」のようなものと考えられることを示しているように思われます。また、フランスと日本の定型発達児との比較によって、情動的共感に基づく行動的類似性があることが示されました。日仏両国どちらにおいても、軽度の自閉症児²⁾の行動から情動的共感を取り除くことはできません。

「フランスと日本の定型発達児との比較によって、情動的共感に基づく行動的類似性があることが示されました。」

日本の研究チームとの研究を経験されたわけですが

研究プロジェクトの実施以上のものでした。互いに協力して成功させようという思いが絡み、文化的意義がありました。

最後に、財団に対してひと言をお願いします

ダイナミックで親切。クオリティが高い財団です。

1. 欠けている機能を補う一種の道具
2. 重度の自閉症ではなく、いくつかのコミュニケーション要素を持っている子ども





東北風土マラソン&フェスティバルとメドック・マラソンとの交流

メドック・マラソンは赤ワインで有名なボルドー、メドック地方で毎年開催されるフルマラソンである。約10,000人の仮装ランナーがぶどう畑の中のコースを楽しみながら走る。給水所では、水はもちろんワインも振る舞われ、オイスターやステーキ、チーズ、ハムといった補給食を楽しめるポイントも充実している。参加者、応援者、地元住民全体で楽しめる大会として世界中のランナーに知られている。

東北風土マラソン&フェスティバルは、このメドック・マラソンの企画協力を得て2014年に始められた、宮城県登米市で開催される宮城県内唯一のフルマラソンである。ここは、東日本大震災により、東北沿岸地域がなお膨大な課題を抱えていると同時に、復興への情熱、豊かな風土への愛、新しい地域振興の取り組みの数々など、前を向く人間の営みがエネルギーを発している地域でもある。そこでこの場所を少しでも多くの人に訪れてもらいたいと、この東北風土マラソン&フェスティバルが開始されたのである。

メドック・マラソン同様、走るだけではなく東北各地の物産展や酒蔵見学など、各種ツアーを同時開催し、ランナーも子供達もボランティアも観光客も、そして地元の人たちも、みんなで楽しめるお祭りイベントとなっている。

東北風土マラソンにおいては、ランナーや参加者にフランスのワイン文化への理解を深めてもらったり、メドック・マラソンの告知を行い、日本や東北からの参加者を増やすため、メドック・マラソンのブースを設置。メドック・マラソンにおいては、東北の食、日本酒の魅力を伝えるとともに、東北風土マラソン&フェスティバルをPRし、フランスから日本への来訪者を募るための支援を行った。



日仏高校生交流ー コルマール・バルトルディ高校 と広島・舟入高校

アルザス地方のコルマールにあるバルトルディ高校は、フランス東部で唯一日本語セクションを持ち、遠く離れた場所からやってきて、寮生活しながらも日本語を学習したいと思うような生徒が集まってくる学校である。パリ日本文化会館主催の全仏日本語スピーチコンテストにも参加し、毎年1人以上の生徒が入賞しているほど、日本語学習が盛んだ。

2005年、第二次世界大戦終了60周年記念としてストラスブールで開催された高校生の国際会議「ユースコラ」をきっかけに、バルトルディ高校は広島の舟入高校と出会った。以後広島の高校は毎年、コルマールの高校は2006年より2年に1度の割合でお互いを訪問し、2010年には姉妹校提携を結ぶほどになった。

当財団は、この舟入高校との交流をさらに深めるとともに、日本の歴史や文化をよりよく学習するため、バルトルディ高校日本語セクションの2、3年生40人程度の日本修学旅行に対する助成を2008年に開始、2016年まで5回に渡って、このプロジェクトを支援してきた。

バルトルディ高校の生徒が日本を身近に感じるのも、舟入高校の生徒と直接交流ができ、本物の日本に触れ、体験することができるからである。実際、日本へ行き、日本の生活・文化に触れることで、生徒たちが見違えるほど成長し、国際化していくのである。

旅行前

引率の日本語教員は、同行の社会科教員と協力し、あらかじめ日本の地理や歴史、文化のテーマを選び、グループごとに予習をさせておく。こうして生徒たちは、実際の修学旅行で見聞したり、体験したりすることで、それらのテーマへの理解を深めることができるのだ。

旅行中

特に広島では戦争を通じてアルザスとの歴史的な共通点を見つけ出すこと、日本の高校生活を体験し、日本の生徒らと寝食を共にし、語り合うことを目指す。また東京では、なぜ日本が現代の最先進技術のトップを走りながらも伝統文化を日常の隅々まで残しながら生活しているのか、何が日本のパワーとなっているのかを考える機会とする。



山本能楽堂 ナント、 ヴィルファヴァール公演

山本能楽堂は、創造都市対話およびブルターニュ大公城と大阪城との姉妹城提携調印の機会に招聘を受け、23人の能楽者とスタッフが2017年10月19日から21日までナントを訪問。「高砂」の謡、「石橋」の抜粋、そして「土蜘蛛」の全曲を上演。

満席の会場となったグラスラン劇場（オペラハウス）での「土蜘蛛」公演は、観客からスタンディングオベーションの拍手喝采を受けた。公演のほか、能のワークショップもブルゴーニュ大公城にて3回行われ、あらゆる年代のナント市民にこの伝統芸能のエッセンスを味わってもらった。

ナントを後にした山本能楽堂は、10月22日リモージュ近郊のヴィルファヴァール農場の受け入れにより能楽を上演。ここは2002年のオープン以来、熱心に観客開発を行ってきたが、今回の来場者たちは特に好奇心と情熱、そして特に高い感度を持って本公演に接し、会場は満席となった。なお、公演の前半では能楽と能衣装の紹介が行われた。

能楽は日本の伝統芸能の一つであり、ユネスコの世界無形遺産にも登録されている。そのフランス待望の能楽公演が、ロワール川流域の首都ナントやリモージュ地方の田園の只中にあるヴィルファヴァールで初上演された。能楽はその評価に違わず、多くの観客に好奇の気持ちと興奮を引き起こしたのである。



「土蜘蛛」

病気で臥せる源頼光の病室に見知らぬ法師が現れた。法師をよく見るとその姿は蜘蛛の化け物だった。あつという間もなく千筋の糸を繰り出し、頼光をがんじがらめにしようとするのを頼光は源家相伝の名刀を抜き払い、斬りつけた。すると、法師はたちまち姿を消した。頼光は侍臣独武者（ひとりむしゃ）に蜘蛛の化け物を成敗するよう、独武者に命じる。独武者らが土蜘蛛の血をたどっていくと、化け物の巣とおぼしき古塚が現れた。これを突き崩すと、その中から土蜘蛛の精が現れる。土蜘蛛は千筋の糸を投げかけて独武者たちをてこずらせるが、大勢で取り囲み、ついに土蜘蛛を退治する。

山本能楽堂

大阪市内中心部にある山本能楽堂は、京都の両替商でのちに観世流の能楽師となった山本博之によって1927年に建てられた。第二次世界大戦で消失したが、1950年に再建。80年以上前の伝統的な建築が保存されているとして、2006年に国の登録有形文化財に登録された。定期的な能公演のほか、関西の舞台芸能を紹介する様々なイベントを主催し、古典芸能の発信拠点としての役割も担っている。



PERFUME ART PROJECT

PERFUME ART PROJECTは、2015年京都嵯峨芸術大学の当時講師であった岩崎陽子氏のイニシアチブで始まったプロジェクトで、高い香り文化の伝統を持つ京都とフランスに在住するアーティスト、学生、研究者の交流を行い、香りや匂いへの気づきを通じて、文化に対する理解と親睦を深めることを目的としている。

このプロジェクトでは、京都嵯峨芸術大学の学生とパリのエコール・デ・ボザールの川俣正ラボの学生が互いの都市を訪問し、香りについて受けたインスピレーションをもとに交流をしながら香りアート制作を行った。

2016年は、フランスの香りアーティスト、ボリス・ローの指導のもと、パリとリヨンのボザールの学生3人と京都嵯峨芸術大学学生20人で、7月1日から7日まで京都芸術センターにて「ここ・そこ・あそこ〜香りのアート2016」と題する日仏香りのアート学生交流展を実施。秋には京都嵯峨芸術大学の学生4人がサンテチエンヌに2週間滞在し、リヨン・ボザールの学生2人とともに、この町の過去を彩った炭鉱を主題とした香りのアートパフォーマンス「Odor Odori」を創作、披露した。

翌2017年は、パリ・ボザールの学生3人が来日。嵯峨美術芸術大学の9人の学生とともに香り渉猟のため京都めぐりを行った後、共同で作品を制作し、7月5日から10日まで大学内での交流展「丹穂（におい）」を開催。パリでは、嵯峨美術芸術大学の学生6人が作品制作のために滞在し、国際大学都市日本館において10月26日から28日まで「香気を纏うスモーキー・ヘッド」展を実施した。

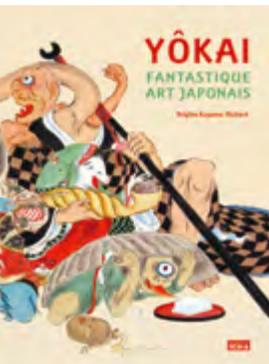
このプロジェクトで一連の活動で、お互いの文化の相違点、共通点を日々感じながら、香りという「当たり前」ではないものを使って共同制作に励み、ともに一つの展覧会、一つの作品を作り上げたのは、日仏の学生たちにとって素晴らしい体験となった。

香りのアートはまだ実践例が少ない先進分野である。とはいえ、昨今の生活に置ける香りブームを見てもわかるように、誰しもが興味を持つ分野でもある。

香りという形のないものを軸に作品を作っていく際、制作者の身体というフィルターを通して必ずアイデンティティが透けて見えてくる。香りの作品を作る際、そして鑑賞する際にも、人は自らの属する国、政治、文化、社会について振り替えざるを得ない。そしてそれは他者や他国について深く思いを巡らせる契機ともなるのである。

「学生達はこのプロジェクトで一連の活動で、お互いの文化の相違点、共通点を日々感じながら共同制作に挑んだ」





目次

- ・妖怪の出現
- ・目に見えない世界の生き物たち
- ・伝説上のヒーローと動物たち
- ・蘇るモノと寄り添うモノ
- ・別添資料

概要

定価
35ユーロ
 サイズ
23 x 30 cm
256頁・画像300枚
 ハードカバー
 ISBN
978-2-35988-192-9
 出版社
 レ・ヌーヴェル
 ・エディション・スカラ

『日本の幻想芸術としての ヨーカイ（妖怪）』出版 プロジェクト

ブリジット・小山 = リシャルド氏は控えめな性格の持ち主ではあるが、日仏関係には欠かせない人物である。その証左として、武蔵野美術大学の教授として比較文学と美術史を教える傍ら、これまでに日本関連の書籍を20冊以上も上梓してきた。出版活動は過去にとどまらず現在も進行中で、2018年には再び当財団からの助成を得て、ジャポニスムについて綴った『パリの日本』が刊行予定である。現時点では明かされていないが、将来に向けての執筆のアイディアは尽きない。

近著として『マンガの千年』（2007年）、『日本アニメ—絵巻物からポケモンまで』（2010年）、『浮世絵』（2014年）、『版画遊び』（2015年）、『日本美』（2016年）がある。

ヌーヴェル・エディション・スカラ出版から当財団に『日本の幻想芸術としてのヨーカイ（妖怪）』への出版助成申請があったとき、この想像上の不思議な怪物たちの歴史をフランスの読者に紹介する好機だと考えるのに全く躊躇はなかった。

ブリジット・小山 = リシャルド氏との対談

「ヨーカイ」とは何かご説明いただけますか？また日本文化においてどのような位置付けなのでしょうか？

「ヨーカイ」とは、この世のものではない存在のことで。不可思議な現象（音や匂いなど）の形を取ることもあるし、ほとんどの場合は恐ろしい姿形をした異様なモノであったりします。



「ヨーカイ」は大抵の場合ネガティブに使われる言葉です。なぜなら、想像上のモノであれ現象であれ、人間の意志が及ばないものだからです。

「ヨーカイ」たちは、文学、習俗、芸術、歴史など、日本文化全てに登場します。

生きとし生けるもの全てに魂が宿ると考えるアニミズム的信仰がそこに加わります。総じて「ヨーカイ」は怖くなくなった現在の日本社会においても、このようなアニミズム的な考え方は消えることなく残っています。

われわれは技術や合理性がますます大きく支配する世の中に生きていますが、日本から「ヨーカイ」は消えてなりません。それはどのような理由からだとお考えになりますか？

西洋人にとっては不思議なことかもしれませんが、日本人は「ヨーカイ」や「ユレーイ」、超自然現象などを信じないと言いながらとても迷信深く、ほとんどの人は悪霊を恐れたり、祖先信仰に捉われたりしているのです。ほとんどの地方では、豊作を願う神事や「海開き」などといった宗教行事が今でも毎年行われています。

西洋の読者の間でこの「ヨーカイ」が成功を収めた理由をどのように説明しますか？

大多数の西洋人にとって「ヨーカイ」は、今はなき水木しげるなどの漫画や、アニメ、テレビゲームで知った世界なのですが、彼らの目からすると、全く別の世界なのです。「ヨーカイ」たちが宗教性を帯びているからではなく、とてもカラフルで面白い形をした遊び心のある楽しい部分があるから惹かれたのだと思います。日本の画家たちも、あふれんばかりの芸術的想像力を発揮して、百歳になると姿形を変えると異形のモノ（百鬼夜行）を描いています。楽器や雨傘、日傘などの形をしていることも「ヨーカイ」の面白さに一役買っています。絵巻物や浮世絵の中では、妖怪たちが夜の暗闇を歩き、曙光とともに消えゆく様が描かれています。その最大の楽しみは、姿形を変えるモノや動物たちです。異形のモノたちは時代を経て何世代も受け継がれ、現在のアーティストたちによって描かれ続けているのです。

「「ヨーカイ」たちが宗教性を帯びているからではなく、とてもカラフルで面白い形をした遊び心のある楽しい部分があるから惹かれたのだと思います」

「ヨーカイ」についての本を出そうという欲求はどこから生まれたのでしょうか？

過去の著作と同様、西洋の読者に日本文化の一面を伝えたい、知らせたいと思う気持ちから生まれました。日本でも西洋でもまだ存在していないような本を出したいと常に願っています。自分にとって研究とは他者との、そして読者との共有でなければならないものです。一番大事な願いは、時代全体を通じた主題を読者に俯瞰してもらうことです。ままするの、読者の世代によっては、好きな日本美術が浮世絵にとどまってしまうことです。若い世代はというと、マンガやアニメならよく知っています。なので、まず大事なことは、どの本においても、選んだテーマについては、最古の時代から現代まで、時代の変遷を紹介することです。日本文化や日本美術の継続性を紹介するという私の意図が良い解決法になっているかどうかわかりませんが、このような道を辿り続けることが大事のように思います。

もしあなたが「ヨーカイ」だとしたら、何になりますか？

間違いなく、ろくろつ首を選ぶでしょう。混雑した美術館でも絵画や浮世絵を好きなように観ることができますから！

財団を一言で言うと？

日本文化の企画を実現しようとしている人や研究者にとって「必要不可欠な」存在です。



フランス国立ギメ東洋美術館 への助成

—デュボワ博士写真コレクションの活用

フランス国立ギメ東洋美術館（以下、ギメ美術館）は2000年代にデュボワ博士写真コレクションを収蔵、世界における日本の古写真コレクションにおいて最も重要なものの一つとなっている。

その質の高いコレクションが示しているとおり、デュボワ博士は秀でた収集家ではあったが、写真を保管し記録するための場所や知識は持っておらず、撮影者や撮影場所の特定、目録化など、このコレクションを活用していくためには、新たな所有者となったギメ美術館が作業に着手する必要があるためである。

1世紀以上前に撮影された1万8,000枚にのぼる写真と300冊を超すアルバムからなるコレクションである。これを目録化するという膨大な作業をしっかりと進めていくため、ギメ美術館は当財団へ相談に訪れた。そしてわれわれは、このコレクションの計り知れない価値と日仏関係にとっての重要性に鑑み、例外的に4年継続での支援を決定したのである。

ミッションをいくつか設け、それにしたがってデータベースの構築とデータ入力、キーワードの設計定義が可能となるとの計画である。アルバムのほとんどが白黒写真に彩色を施した「横山写真」と呼ばれる外国人土産用アルバムだが、この土産用アルバムには民俗研究的な目的はなく、むしろ近代的な日本を巧妙に隠し、外国人観光客が好む絵のような、エキゾチックな日本の思い出としてのアルバムとなっている。アルバムが一種の雑多なリストとなっていることや、目次の付け方からみてもそうとわかる。機関車の写真は1枚のみで、人力車の写真は461枚もあることもその証拠であろう。



7,070枚が「人物と生活」の写真で、そのうち70%が女性、38%が男性の写真である。

「日本の建物と自然」と「人物と生活」（人物、女性、男性、職業、交通、動物、植物）というテーマに沿って仕分けされ、目録化された。

現在ギメ美術館関係者の内部閲覧のみが可能となっているが、そのデータコレクションは22,000枚を有し世界最大のものである。これと比較し、公開されているデータベースで世界最大のものは長崎大学の7,700枚である。

現在このプロジェクトは完了し、7,000枚の写真と撮影者30人（うち20人が日本人）が特定された。多くは市田左右太、鹿嶋清兵衛、金丸源三、桑田正三郎、成井頼佐、鈴木真一、臼井秀三郎などの日本人の撮影による写真であり、フランスや西洋での公的コレクションにはまだ入っていない。

現在写真はアルバムに再編成され、Flickrに収められている。

ジョゼフ・デュボワ

ノール県オーブルダン在住の医師、ジョゼフ・デュボワ（1943–2014）は、愛書家であり写真収集家であった。大の日本好きでもあり、ノール・日本協会の会長を務めていたこともある。彼の日本コレクションのうち、19世紀の17,000枚の写真と50冊の本は2007年から2009年にかけてギメ美術館に収蔵された。

内田九一

1872年代、東京に居を構えた内田九一（1844–1875）は、日本で最も重要な写真家として名を馳せた。長崎で写真を学び、明治天皇の初期の肖像写真を撮影。1872年には天皇の西日本御巡幸に随行した。江戸城から皇居へと変遷する様子をカメラに収めたのは内田だとされている。彼の新しい写真館はレンガとガラス作りの洋館で、そこでは有名な歌舞伎役者や芸者の肖像写真が撮影された。



コルマールのプチット・ヴニーズ（リトル・ヴェニス）

2016・2017年度 のプロジェクト

95件のプロジェクトが実施
期間は2016年1月1日から2017年12月31日まで
総額は865,779ユーロ

芸術・文化

52件 / 436,100 ユーロ

学術・シンポジウム・研究

16件 / 210,362 ユーロ

教育・研修・交流

12件 / 78,014 ユーロ

出版・コミュニケーション・メディア

15件 / 141,303 ユーロ

注一 振込通貨での助成金額を最初に記載。それを会計士設定の為替レートで換算し、参考金額としてカッコ内に記した。
特に記載のない限り、金額は実際に支払われた助成額である。本アニュアルレポート制作時点において事業が未完了の場合は、
契約額と記載。これは、理事会の承認額であり、会計上の金額である。

*は東京事務局担当プロジェクト

2016年度 のプロジェクト

42件のプロジェクトが実施
期間は2016年1月1日から12月31日まで
総額は438,951ユーロ

芸術・文化

20件 / 179,932 ユーロ

学術・シンポジウム・研究

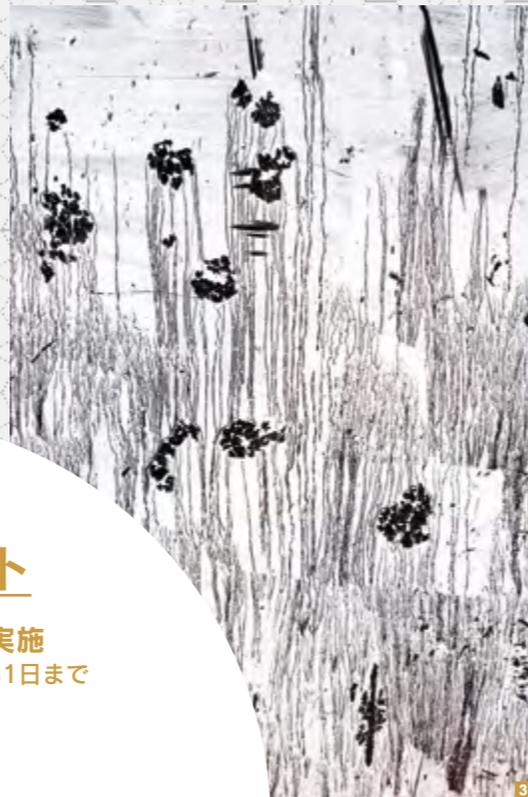
9件 / 149,130 ユーロ

教育・研修・交流

7件 / 48,589 ユーロ

出版・コミュニケーション・メディア

6件 / 61,300 ユーロ



芸術・文化

* セシリアシンガーズ第7回定期演奏会 1

2016年7月16日に、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールにて、19世紀のフランス音楽をプログラムに組んだ演奏会を上演

特定非営利活動法人「音楽の木」（滋賀県守山市）
200,000円(1,598ユーロ)

* 哲学のタベ 2

ジョアン・スヴァルトヴァゲールと、ジャグリング、アクロバット、コンテンポラリーダンス、コントーション、ブレイクダンス、コンテンポラリーサーカスなどジャンルの異なる6人の日本人アーティストが作品『山の向こう』を共同で創作し、2016年5月28日にアンステイチュ・フランセ東京にて披露

アンステイチュ・フランセ東京（東京）
570,000円(4,501ユーロ)

クレール・ド・ヴィリユー写真展 3

奈良にインスピレーションを得た写真を、2017年2月23日から3月4日までパリのギャラリーJardins en Art、3月20日から27日までBoquet & Marty de Cambiaire Fine Art、ついで4月には京都国際写真祭のサテライトイベントであるKG +にて展示

クレール・ド・ヴィリユー（パリ）
4,998ユーロ（653,168円）



日本人漫画家のパリ郊外滞在

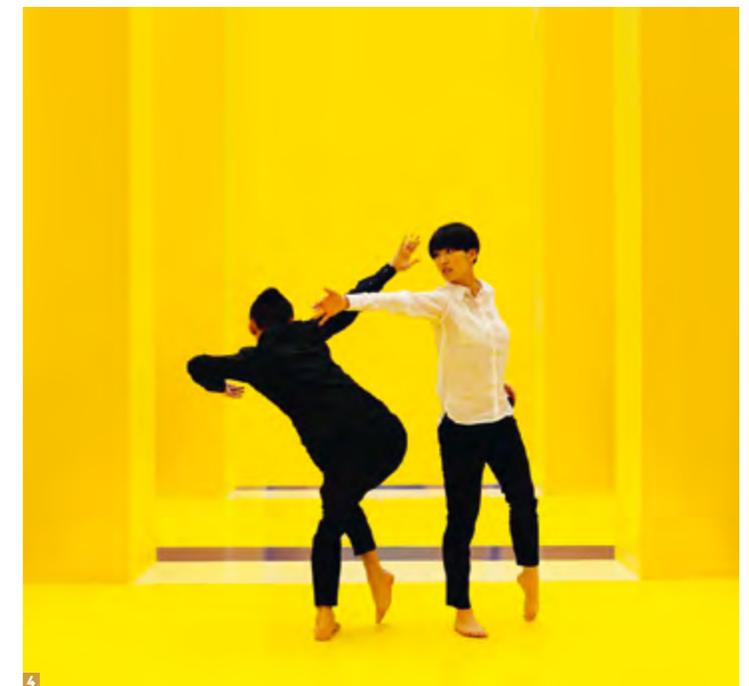
書籍『ドメスティコロジー』の挿絵のため、一人の若手漫画家が2ヶ月間滞在し、パリ郊外の各地を漫画で描き、その作品がシテ建築遺産博物館で展示される

RAD (Research for Architectural Domain) (パリ)
570,000円(4,501ユーロ) [契約額5,000ユーロは未払い]

* 『Coco』パリ公演とフランスのダンスカンパニーへの作品振付 4

タリノフ・ダンス・カンパニーは2016年5月18、19日パリ天理日仏文化協会で『Coco』を上演したほか、2016年8月31日から9月24日までサン・モールのコンセルヴァトワールにて、フランスのカンパニー、カルマダンスプロジェクトのために、「間」をテーマとした作品『MAKOTO』を創作

タリノフ・ダンス・カンパニー（東京）
700,000円（5,464ユーロ）





6

*** MEET IN ARLES! YPF 5**

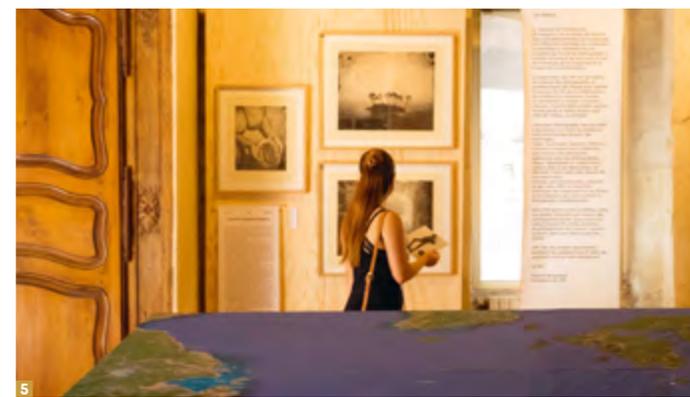
2016年7月2日から8月1日まで、屋久島国際写真フェスティバル (YPF) がアルル国際写真フェスティバルに参加し、フランス人作家4人、日本人作家4人、ニュータレント6人の写真126点を展示

屋久島国際写真フェスティバル (YPF) (鹿児島県屋久島町)
700,000円 (5,611ユーロ)

写真展「日本の今日と明日」 6

ドルドーニュ地方ル・ヴィガン・アン・ケルシーにて2016年7月12日から8月17日まで開催され、フェランテ・フェランティ、新原由梨奈、ジェナ=ジュイス・サヴィ、天江竜太の作品がノートル・ダム・ド・ラサンブション教会で、高井潤の作品がエスパス・ジャン・カルメで、伊東昭義の作品がマノワール・ド・ラバリエールで、それぞれ展示

「ル・ヴィガン、文化とアニメーション」協会 (ル・ヴィガン)
6,000ユーロ (768,697円)



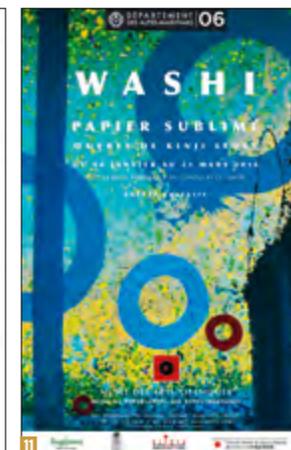
5



5



7



11



8

第23回ヴズール国際アジア映画祭「日本プログラム」 7

「日本の食卓」をテーマに、2017年2月7日から14日までヴズールで開催

国際アジア映画祭協会 (ヴズール)
6,000ユーロ (702,825円)

*** TOKYOパリ展 8**

2016年11月8日から27日までパリのギャラリー・ハヤサキにて、山田なつみの写真作品プラチナ和紙プリント7点とバライタプリント8点を展示、フランスでは2011年の東日本大震災で様々なものを失った土地というイメージのみで語られる福島や宮城だが、これらの地方の伝統文化を守り、伝えなければならないというメッセージを作品を通じて発信

TOKYOパリ展実行委員会 (宮城県角田市)
800,000円 (6,810ユーロ)

コンサート「デオダ・ド・セヴラックと日本の現代音楽」 9

2016年7月21日にセレ、7月22日にサン=フェリックス=ロラゲ、7月24日にパリ国際大学都市日本館で順次開催され、ピアニストの館野泉と日本から来た12人の音楽家が演奏

フェスティバル・ド・セヴラック (トゥールーズ)
6,860ユーロ (803,617円)

*** 日仏文化交流 in Tours 10**

高松を拠点にする工芸作家集団、匠雲のメンバー3人が2016年1月15、16日にトゥール市を訪問、盆栽や漆芸、陶芸などの作品展示会と実演ワークショップを実施し、現地のクリエイターや職人組合のメンバーが参加

匠雲 (高松市)
900,000円 (7,007ユーロ)

*** 磯部錦司作品展「WASHI - PAPIER SUBLIMÉ」 11**

ニースのアジア美術館にて2016年1月14日から3月21日まで50点ほどの作品が展示、和紙作りから絵画制作までのプロセスとなる環境や生活文化を紹介するビデオが会場内で上映されたほか、作家本人による一般市民を対象にした和紙のワークショップが地元中学校や美術館、日仏協会で開催

磯部錦司 (名古屋)
1,000,000円 (7,937ユーロ)



9



10



★ **カンパニー デフラクト『フランク』日本公演** 12

2016年10月9日代々木オリンピックセンター、10月14日から16日まで世田谷パブリックシアター、10月22、23日久留米シティプラザで公演

公益財団法人せたがや文化財団（東京）

1,000,000円（8,561ユーロ）

★ **東北風土マラソン&フェスティバルとメドック・マラソンとの交流**（14頁参照）

2016年4月23から25日まで開催された東北風土マラソン&フェスティバルで、ボルドー産ワインの紹介、試飲を行い、2016年9月9、10日に開催のメドック・マラソンでは、東北風土マラソン&フェスティバルの幹部4人がブースを開設し、同大会と東北の酒をPR

一般社団法人東北風土マラソン&フェスティバル（宮城県登米市）

1,052,000円（8,503ユーロ）

★ **京都・パリ - 香りのアート交流**（18頁参照）

2015年から始まった、京都嵯峨芸術大学とパリ・ボザールの川俣正ラボの生徒による交流プロジェクトへの継続支援。2016年は、ボリス・ローとパリ・ボザールの学生2人、リヨン・ボザールの学生1人を招聘、京都に2週間滞在し、京都嵯峨芸術大学の学生たちと7月1日から7日まで京都芸術センターにて「ここ・そこ・あそこ～香りのアート2016」と題する日仏香りのアート学生交流展を実施。10月9日にはパリ大学の哲学教授シャントル・ジャケ教授が来日、同志社大学にて講演会を行ったほか、10月末から11月初めには京都嵯峨芸術大学の学生4人がサンテチエンヌに2週間滞在し、リヨン・ボザールの学生2人とともにアートパフォーマンス「Odor Odori」を創作、披露

京都嵯峨芸術大学 専任講師 岩崎陽子（京都）

1,250,000円（9,964ユーロ）

コンサート&作品展2016「昨日、今日、明日」 13

日本と外国の若手音楽家に自分たちの楽曲を演奏・発表する機会を提供するプロジェクト

パリ国際大学都市日本館（パリ）

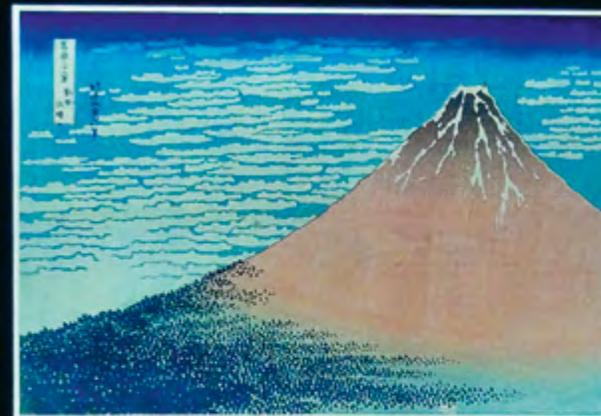
10,000ユーロ（1,171,375円）

★ **デジタル浮世絵と江戸語り** 14

「落語／浮世絵～伝統と現代の出会い」が2016年12月8、9日にパリ日本文化会館にて上演。第一部は三遊亭竜楽が江戸落語の伝統的な2演目をフランス語と日本語で口演、第二部はNHKの牧野氏がナビゲーターとなり、ボストン美術館所蔵の有名なスポルディング・コレクションの高解像度デジタル浮世絵を映し出して紹介、第三部はデジタル浮世絵と落語家の語りを交差させた舞台となった

三遊亭竜楽（東京）

1,400,000円（11,957ユーロ）



ヴィラ九条山のアーティストによる

狩猟自然博物館での展示 15

ヴィラ九条山に所属していた2人のアーティスト、ミリン・グエン（工芸、2015年）とジョゼ・レヴィ（デザイン、2011年）の作品展示会への助成。2016年3月31日から6月5日までパリで開催された「Festival D' Day」の際に狩猟自然博物館で実施

狩猟自然フランソワ・ソメ財団（パリ）

15,000ユーロ（1,921,742円）

★ **アンスティチュ・フランセとのパートナーシップ** 16

2016年は、「第19回カイエ・デュ・シネマ週間」（東京・京都・大阪・横浜）、「フランス映画祭2016地方開催」（京都・大阪・福岡）、「恋愛のディスクール映画と愛をめぐる断章」（東京・横浜）、「フランス幻想怪奇映画特集」（東京・京都）、「伝説の映画制作会社ディアゴナル特集」（東京）、「マイ・フレンチ・フィルム・フェスティバル」（東京）、「フランコフォニー映画祭2016」（東京）、「フランス人映画作家による日本へのまなざし」（東京）の8つのプログラムが組まれた

2,000,000円（15,570ユーロ）

コンサート「愛の歌」（10頁参照）

2016年5月2日にブッフ・デュ・ノール劇場でコンサート「愛の歌」を上演し、奈良ゆみとジェイ・ゴットリーブが、演奏される機会が稀な松平頼則とオリヴィエ・メシアン作品を演奏

笹川日仏財団自主事業

32,592ユーロ（4,175,560円）



学術・シンポジウム・調査研究

* 日仏演劇国際シンポジウム

「越境する 翻訳・翻案・異文化交流」 17

2016年10月25日から27日まで早稲田大学で開催され、ストラスブール大学からサカエ・ムラカミ=ジルー、ヴィルジニー・フェルモー、マリー・ビゼ=リリグ、エミリア・クストーヴァ、イリニ・ツアマドゥ=ジャコベルジェ、カロール・エゲルの6人、早稲田大学から児玉竜一、竹本幹夫、中島国彦、水田佳穂、藤井慎太郎、石塚安希の6人、聖学院大学の寺田詩麻、日本学術研究会議の奥香織らが参集

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館（東京）

700,000円（5,956ユーロ）

* 日仏ウィメンズヘルス合同研究会 18

フランスからフランソワーズ・ピズアール（IFMK[=理学療法士養成研究所]-アサス）、アナベル・クイヤンドル（IFMK-オルレアン所長）、立花翔太郎（IFMK-アサス）、アントニー・ドゥモン（IFMK-オルレアン）、ジル・ボーム（IFMK-ベール）、マリオン・ルマリネル（AICIR）の6人の講師を招聘、日本全国からは110名以上が集まり、理学療法的観点から女性の健康問題への取り組みの違いなどをテーマに、2016年9月1日から4日まで研究会を開催

AICIR（Association for International Cooperations and Innovations in Rehabilitation）日本支部（神戸）

850,000円（7,275ユーロ）

* 日仏秋サケ共同研究 19

2016年4月から2017年3月まで、ロレーヌ大学と北海道大学大学院水産科学研究所が秋サケ油の抽出についての共同研究を実施

北海道大学大学院 特任教授 高橋是太郎（函館）

1,145,427円（8,913ユーロ）



ニューテクノロジーに関する日仏交流展 20

2016年4月4日に京都で開催されたシンポジウム「社会に対するニューテクノロジーの影響—学際的アプローチ」への助成

トゥーロン・ヴァール・テクノロジー協会（トゥーロン）

14,000ユーロ（1,793,625円）

自閉症の研究（12頁参照）

岡山県立大学、岐阜大学、芝浦工業大学との間で2015年にスタートした自閉症に関する日仏共同研究の第二フェーズ

セルクル・アンテル・ユニヴェルシテール（パリ）

15,000ユーロ（1,998,553円）

[2018年6月30日時点で契約額15,000ユーロのうち13,000ユーロ支払済]

神経科学博士課程の日本人の支援

博士課程4年目（2015-2016年）の新垣貴史氏の論文「Collective dynamics of basal ganglia-thalamo-cortical loops and their roles in functions and dysfunctions（大脳基底核-視床-皮質ループの集団ダイナミクスと、機能と機能障害における役割）」を支援

エコール・デ・ニューロサイエンス（パリ）

16,433ユーロ（2,105,332円）

第2回 国際シンポジウム

「木質科学と木工芸2016」（8頁参照）

「木工芸の美と技」をテーマとした上記シンポジウムが2016年9月20日から23日まで京都大学ほかにて開催

Wood Science and Craft 2016実行委員会（京都）

2,000,000円（17,132ユーロ）



シンポジウム

「クロード・レヴィ=ストロースと日本」（7頁参照）

川田順造教授（文化人類学）、港千尋氏（写真家・映像人類学者）、渡辺公三教授（文化人類学）、フランソワ・ラショー氏（美術史家・日本研究者）、ジャンヌ・コピー氏（民族学者）を招き、2016年6月25日にギメ東洋美術館で開催

笹川日仏財団自主事業

24,421ユーロ（3,128,723円）

京都大学/パスツール国際合同研究ユニット

京都大学とパスツール研究所が作る国際合同研究ユニットの感染症研究への助成。2つの研究プログラム、インフルエンザウイルスに関する研究と日本固有のデング熱のケーススタディが実施

一般財団法人日本パスツール財団（東京）

40,000ユーロ（5,190,000円）

教育・研修・交流

* おおぶ文化眠れる杜シリーズ 21

2016年11月から2017年3月まで愛知県のおおぶ文化交流の杜にて、シャルル・ペローの『眠れる森の美女』をテーマとしたプログラムを組み、バレエ講座、絵画鑑賞講座、演奏会、芸術講座、バックステージツアーを実施

株式会社JTBコミュニケーションデザイン（愛知県大府市）
107,000円（924ユーロ）

* フランス・グランゼコール交流会 22

将棋交流会、東京大学キャンパスツアー、b-labディベートクリエーション、懇親会が2016年7月2日、9日、16日に実施され、3日間でENSEEIH（理工科学院）、ESIEA（情報電気学院）、Telecom-Paristech（テレコム工科学院パリキャンパス）、Supélec-Metz（電気工科学院メス・キャンパス）、ロレーヌ大学、Centrale-Supélec Campus de Rennes（セントラル電気工科学院レンヌ・キャンパス）、ISAE-SUPAERO（航空宇宙工科学院）から合計61名が参加

Santé! Les échanges entre la France et le Japon
（埼玉県草加市）
213,830円（1,679ユーロ）

* 第2回国際「ハウジングファースト」

シンポジウム開催 23

2016年11月5、6日に東京と大阪において「なぜ住まうことから始めると回復するのか」をテーマに開催
特別非営利活動法人世界の医療団日本（東京）

北海道大学大学院
500,000円（4,230ユーロ）

HEC経営大学院学生の東京滞在

HEC経営大学院のメディア・アート・クリエーション課程の学生は、毎年1つの街を選び学習の対象としているが、2016-2017年度は東京を選択、学生40人が2017年3月22日から28日まで東京に滞在し、文化の担い手を訪問。

MAC-HEC協会（ジュイ=アン=ジョザス）
9,000ユーロ（1,175,702円）

ブルゴーニュ公のフレスコ画制作 24

2016年7月1日から8月31日にかけてオータンのユルスリーヌ塔内で、日本とフランスの学生がブルゴーニュ公を称えるフレスコ画を制作したプロジェクト。フレスコ画を紹介するホームページの作成と動画撮影に対して助成を実施

ユルスリーヌ国際文化センター（オータン）
10,000ユーロ（1,281,161円）

フランスと福島の高校生交流 25

核関連防護度評価研究センター、放射線防護・原子力安全研究所及び東京大学の共同コーディネートのもと、ポワティエのボワ・ダムール高校、ブローニュのノートルダム高校と福島高校が2013年9月から提携して実施している事業の一環として、フランスの高校生9人と随行者3人が2016年8月15日から20日にかけて日本を旅行、4か国から42名が参集した放射能防御ワークショップに参加

核関連防護度評価研究センター（CEPN）
（フォントネー・オ・ローズ）
10,000ユーロ（1,281,161円）

* 日仏高校生交流 - コルマール・

バルトルディ高校と広島・舟入高校（15頁参照）

コルマールのバルトルディ高校で日本語を学ぶ2、3年の生徒42人と引率教師3人が2016年10月12日から24日まで広島、京都、奈良、箱根、東京を訪れ、歴史と文化を学習

日本語教師 岡戸真理（東京）
1,500,000円（12,756ユーロ）



出版・コミュニケーション・メディア

マリ・プリュヴォ=デラール著『日本アニメの源泉』
レ・プレス・ユニヴェルシテール・ド・レンヌ/SAIC
Editions (レンヌ)
500ユーロ (58,569円)

ジェレミー・ステラ写真、ブノワ・ジャケ文
『メタボリズム』2019年冬に出版予定 ²⁶

ル・レザール・ノワール出版 (ポワティエ)
8,000ユーロ (1,024,929円) [2018年6月30日時点で
契約額8,000ユーロのうち、6,000ユーロ支払済]

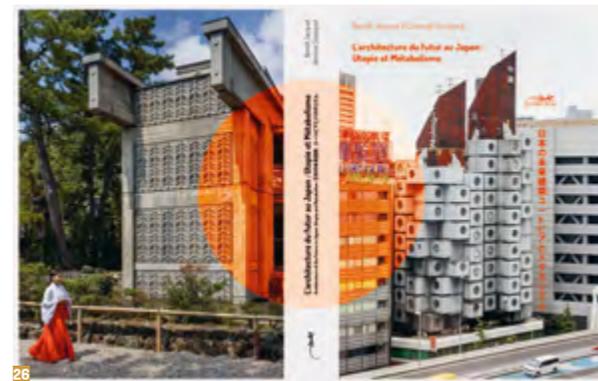
日本の祭りガイドブック
日本の祭りの特徴と役立つ現地情報を紹介するフラン
ス語の文化ガイド執筆への助成

ドレカミ株式会社 (東京) ²⁷
8,000ユーロ (1,024,929円)
[2018年6月30日時点で契約額8,000ユーロのうち6,000ユーロ支払済]

ソフィ・カバリエロ&ヴァレリー・ドゥニオ著、アン
ドッシュ・プロデル序『現代の日本陶芸』 ²⁸
イキ出版 (レルス) /2016年/410頁
9,000ユーロ (1,153,045円)

フランス国立ギメ東洋美術館 (ギメ美術館) デュボワ
博士写真コレクションの活用 (22頁参照)
ギメ美術館写真部門のデュボワ博士写真コレクション
の資料整理、保管収蔵、電子カタログ作成への助成
フランス国立ギメ東洋美術館 (パリ)
15,800ユーロ (1,850,7732円)

財団の広報活動
ウェブサイト制作、ニュースレター作成など
笹川日仏財団自主事業
20,000ユーロ [契約額] (2,562,322円)



ルシヨンのオークル採掘場跡



ラコスト城（ヴォクリューズ県）と城の最後の所有者、サド侯爵

2017年度 プロジェクト

53件のプロジェクトが実施
 期間は2017年1月1日から12月31日まで
 総額は426,828ユーロ

芸術・文化

32件 / 256,168ユーロ

学術・シンポジウム・研究

7件 / 61,232ユーロ

教育・研修・交流

5件 / 24,425ユーロ

出版・コミュニケーション・メディア

9件 / 80,003ユーロ



芸術・文化

コンサート「6年後の福島」

2011年の東日本大震災は全ての松を根こそぎにしたが、ただ一本だけ残った。この松は「奇跡の一本松」と呼ばれ、この地方の人たちによって希望の象徴となった。バスーン奏者の小山清は、この被災松でバスーン製作を思いつき、1825年設立の管楽器製造を専門とする、フランスのビュッフェ・クランポンの日本支社がこれを製作。バスーンに小山清、フルートにピエール・モンティ、ピアノにジュリアン・ゲヌボーというトリオが結成された。財団は、10月18日パリ国立シテ・テザール、10月21日ポーヌ市立劇場、10月24日エスパス・ハットリでの演奏会を支援

エスパス・ハットリ (パリ)

3,000 ユーロ (384,210円)

* ニュイ・ブランシュKYOTO2017

日仏文化交流100年へのオマージュ

1917年に作曲されたヴァイオリン・ソナタはドビュッシーの最後の作品で、作曲に協力したヴァイオリニストのガストン・プーレと作曲家のピアノによる初演から100年となる。これを記念した演奏会で、ガストン・プーレの息子で、世界の至宝と言われたヴァイオリニストのジェラルド・プーレらが10月6日ニュイ・ブランシュ京都にて上演

金子文子 (京都)

400,000円 (3,123 ユーロ)



* 日仏共同プロジェクト『SURU-折衷-』

日仏アーティストのコラボレーションプロジェクト『SURU-折衷-』への助成。Mobilis-Immobilisのプロデューサー、マフロエ・パスデュエのディレクションのもと、ビデオアーティスト、エティエンヌ・ベルナルド、音楽家のステファン・ビジエールと、日本のTarinof Dance Companyによる『SURU-折衷-』のプレゼンテーションを10月5日イシー・レ・ムリノにて、公演を10月12日ディーニュ・レ・バンにて上演

タリノフ・ダンス・カンパニー (東京)

400,000円 (3,123ユーロ)

山本能楽堂ヴィルファヴァール農場公演 (16頁参照)

出演者・スタッフ総勢23人による、大阪・山本能楽堂公演への助成。リムザンにあるヴィルファヴァール農場にて2017年10月22日に上演。能楽と音楽の簡単な説明の後、土蜘蛛を上演。

ヴィルファヴァール農場 (ヴィルファヴァール)

3,200ユーロ (409,824円)

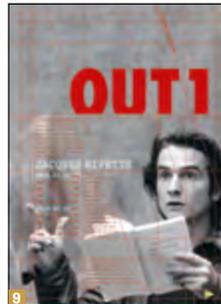
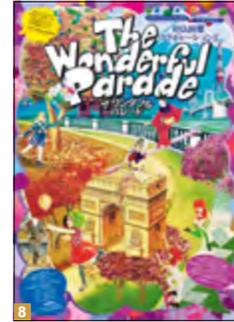
* 人形劇『鳥のものがたり』パリ公演

2017年2月10日から17日までパリの天理日仏協会にて行われたフェスティバル・ニンギョウに北井あけみの「鳥のものがたり」が招聘され、2月14日に昼夜2回の舞台が上演

北井あけみ (東京)

400,000円 (3,268ユーロ)





原恵一監督の招聘 5

2017年12月13日から17日まで開催された第15回フェスティバル「アニメ映画の交差点」へ原恵一監督を招聘。「日本アニメの100年」に焦点を当て、原監督の作品回顧展を開催。

フォーラム・デジマージュ (パリ)
3,300 ユーロ (422,631円)

*** 『マクベスとレディ・マクベス』 6**

2017年3月10日から12日まで東京・高田馬場にて日仏演劇人による『マクベスとレディ・マクベス』が上演
劇団フジ・セーヌ・フランコフォン (横浜)
450,000円 (3,666ユーロ)

*** さきらジュニアオーケストラ ナント公演 7**

オーケストラ一行は、10月19日にナント国立高等音楽院での授業体験、交流会、交流コンサート、22日にはシテ・デ・コングレでのコンサートを上演
さきらジュニアオーケストラ・アカデミー後援会 (滋賀県栗東市)
500,000円 (3,864ユーロ)

*** 「The Wonderful Parade」 神戸公演 8**

フランスの舞台照明家パスカル・ラージリ氏が駆使する「闇の演劇」のテクニックと、日本のフィジカルシアターとのコラボレーションによって生まれた、新たな芸術表現による「The Wonderful Parade」が2017年1月7、8日に神戸アートビレッジセンターにて上演
to R mansion (東京)
*500,000円 (4,031ユーロ)



*** ジャック・リヴェット**

『アウト・ワン 我に触れるな』 上映会 9

ヌーベル・ヴァーグの巨匠、ジャック・リヴェット監督の12時間40分にもわたる伝説的な映画を2017年4月15、16日にアンスティチュ・フランセ東京、4月22、23日立教大学、5月6、7日練馬区生涯学習センター、5月9、16、23、30日に同志社大学、9月9、10日関西大学、2018年2月12、17日練馬区生涯学習センターで上映
インディートーキョー (東京)
500,000円 (4,175ユーロ)

オリヴィエ・セヴェール監督『この水の中で』 10

同監督がヴィラ九条山で滞在制作したビデオ作品のポストプロダクションへの助成。2017年6月7日と9月6日にパリ狩猟自然博物館のオーテトリウムで先行上映
オリヴィエ・セヴェール (パリ))
4,500 ユーロ (541,980円)

『狂った一頁』の上映 11

衣笠貞之助監督・川端康成脚本で1926年に製作された『狂った一頁』上映会への助成。2017年11月17日、映画音楽国際フェスティバル (FIMÉ) の会場となったヴィラ・ノワイユにおいて、公開時のように音楽と語り付きで上映された。今回は成田和子作曲によるオリジナル音楽をアンサンブル・ポリクロニーが演奏、シリル・コッピーニが弁士を担当。
アンサンブル・ポリクロニー (ツェーロン)
5,000ユーロ (602,200円)

ポーヌ「ア・プロボ・デュ・ジャポン (日本について)」フェスティバル 12

同フェスティバルは2017年10月6日から8日まで開催。多様な日本文化を紹介するため、アニメや講演会、展示会、舞台公演、茶道、ディナーショーなどを意欲的に実施
「ア・プロボ・デュ・ジャポン」協会 (ポーヌ)
5,000ユーロ (640,350円)

アニメ映画『ウォーター・ドリーム』 13

映画監督の山村浩二、作曲家のカトリーヌ・ヴェルエルスト、作家のエルヴェ・トゥジュロンによるコラボレーションへの助成。「文化対話」イベントの一環として、「永遠」展（会期2017年10月から2018年3月）開催時にナント自然史博物館にて2017年10月20日に公式に創作発表

Skênêプロダクション（ナント）

5,000ユーロ（640,350円）

「現代日本音楽を巡って」演奏会

2017年7月5日パリ日本文化会館で上演された日仏の若手音楽家による演奏会への助成。パリ国立高等音楽院の管弦楽法科（2009年）、作曲科修士課程（2010年）をいずれも最優秀の成績で修了した台信遼の世界初演となる作品など、さまざまな世代の日本人作曲家の楽曲を演奏

日仏現代音楽協会（パリ）

5,000ユーロ（598,750円）

落語日本ツアーへのユーモア作家同行 14

2017年12月7日から12月24日まで、ステファン・フェランデス、シジル・コッピエニ、サンドリーヌ・ガーブリアによる第5回日本落語ツアーにユーモア作家兼俳優のヤシン・ベルースが同行。噺家の林家染太が特別出演

カンパニー・バラボルカ（ヌイイ・プレザンス）

5,500ユーロ（704,385円）

★ アジール・フロタンール・コルピュジエ

が見た争乱・難民・避難— 15

フランスで文化財の指定を受けた唯一の船であるル・コルピュジエ設計の「アジール・フロタン」を紹介する展示開催の記念として、修復主の一人であるミシェル・カンタル=デュバル氏が来日し、8月4日に記念講演会とシンポジウムが開催

一般社団法人日本建築設計学会（大阪）

800,000円（6,246ユーロ）



ドキュメンタリー『防潮堤』

エレヌ・ロベール監督『防潮堤』の制作および翻訳への助成。将来の津波に備えて東北地方の沿岸に建設中の防潮堤を取り上げた映画。陸地と海、見えるものと見えざるもの、といったように、世界を分離する象徴としてこの巨大な壁が捉えられている

バランテール・フィルム社（マルセイユ）

7,000ユーロ（861,417円）

[2018年6月30日時点で契約額7,000ユーロのうち6,000ユーロ支払済]

ダンス『ロボット、永遠の愛』 16

伊藤郁女のソロダンス作品『ロボット、永遠の愛』（2018年）への創作支援。伊藤郁女は2017年2月20日から27日までトゥールーズ・ラ・ディーグ劇場、4月14日から22日までモンベリアルMA国立劇場にてレジデンスを行い、2018年1月12、13日マルセイユKLAPダンスセンター、1月24日から27日までモンベリアル同劇場、1月24日から27日までクレティユMAC、2月20、21日ナント・リユー・ユニーク、3月9日シャティオン劇場、3月27、28日マルヌ=ラ=ヴァレー・ピュイソン農場、4月3日から7日までパリ104、5月25、26日サンカンタン=アン=イヴリン・セーヌ・ナショナルにて上演。現在も公演は巡回中

ヒメ協会（ラ・ヴァレンヌ）

7,000ユーロ（896,490円）

[2018年6月30日時点で契約額7,000ユーロのうち5,500ユーロ支払済]

★ カンパニーXY『夜はこれから』日本公演 17

フランス・コンテンポラリーサーカスのカンパニーXY招聘への助成。高知県立美術館2017年10月9日、福岡・なみきスクエア10月15日、世田谷パブリックシアター10月20日から22日まで上演

公益財団法人せたがや文化財団（東京）

1,000,000円（7,808ユーロ）

フィリップ・アペロワ作品回顧展 18

2017年8月7日から9月16日まで、ギンザ・グラフィック・ギャラリーにて『Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展』が開催。壁には3Dバックライト照明を当てた実験的なタイポグラフィ作品、シルクスクリーン印刷のポスター、印刷物（本、ブローチャー、展示会カタログ）、オリジナルデッサン、インクや水彩による自由な表現、阿波紙のような高級和紙へのデッサン印刷などが展示

スタジオ・フィリップ・アペロワ（パリ）

8,000ユーロ（963,520円）



19

第2回「ミーヌ音楽祭」

2017年8月30日から9月8日まで、エコール・デ・ミーヌで企画された8演奏会のうち3つがパリ国際大学都市の日本館にて上演。若手日本人演奏家中心のプログラムで、クラリネット鶴山まどか、ヴァイオリン對馬佳祐、ピアノ榎政則、サクソ本堂誠がマルク=アントワーヌ・ノヴェルらのフランス人若手音楽家と共演した

クレッシェンド-APJM若手音楽家振興協会（パリ）
8,000ユーロ（1,024,560円）

★ インテグレイティッド・カンパニー響kyo第4回公演 19

フランス人振付家、ディディエ・テロンを5週間招聘し、健常者と障害を持つダンサーたちの共演作として『東京の人々』を創作。スズキ拓郎振付の『パワポル』とのダブルビルにて、東京芸術センターホワイトスタジオで2017年2月18、19日に上演

クリエイティブアート実行委員会（東京）

1,000,000円（8,162ユーロ）

★ Perfume Art Project 2017（18頁参照）

2015年から始まった、京都嵯峨芸術大学とパリ・ボザールの川俣正ラボの生徒による交流プロジェクトへの継続支援。2017年は、ボザールの学生3名が来日、日本の生徒らと共同で作品を制作し、7月5日から10日までの交流展を開催。パリ国際大学都市日本館において、10月26日から28日まで展覧会とパフォーマンスを実施

京都嵯峨芸術大学 専任講師 岩崎陽子（京都）

1,000,000円（8,204ユーロ）

★ 屋久島国際写真祭 20

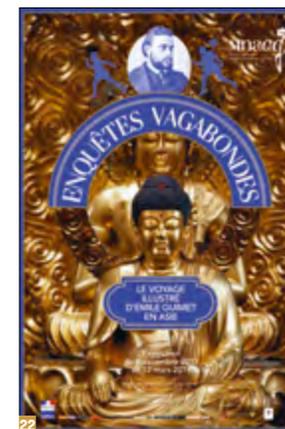
2017年3月17日から21日まで開催の屋久島国際写真祭への助成。島民にもワークショップや展示への参加を呼びかけ、日仏の写真家を通じた文化交流の場となった。招聘フランス人フォトグラファーは、アントナン・ボルゴー、ロフィリップ・マリニグ、マウロ・モンジエロ、アレクサンドル・アミク、ヤン・ル・コロレ、ブノワ・ドゥピユイ

屋久島国際写真祭(YPF)（鹿児島県屋久島町）

1,200,000円（9,727ユーロ）



21



22

岡崎順子ピアノリサイタル 21

ラヴェル没後80周年とヴラード・ペルルミュテール校訂、ペルルミュテールの弟子でピアニストの岡崎順子編によるラヴェル・ピアノシリーズ最終集の刊行を記念して、2017年3月17日パリのサル・ガヴォーにてリサイタルが行われた。演奏曲は、古風なメヌエット、鏡より「蛾」、ソナチネ、夜のガスパール

サル・ガヴォー（パリ）

10,000ユーロ（1,197,500円）

エミール・ギメと画家のフェリックス・レガメによるアジア旅行展 22

2017年12月6日から2018年3月12日まで、フランス国立ギメ東洋美術館は「放浪の調査—絵にみるエミール・ギメのアジア旅行」を開催。二人の足跡を辿りながら、エミール・ギメのアジア調査旅行に随行した画家のフェリックス・レガメが描いた絵画とデッサンに光をあてた。エミール・ギメが最初にリヨン、次いでパリに諸宗教博物館を作るきっかけとなった記念的旅行

フランス国立ギメ東洋美術館（パリ）

10,000ユーロ（1,204,400円）

[2018年6月30日時点で契約額10,000ユーロのうち8,000ユーロ支払済]



23

山本能楽堂ナント公演（16頁参照）

ブルターニュ大公城と大阪城との姉妹提携締結を記念した、山本能楽堂によるナントで初となる能楽公演への助成。10月19日ナント市役所で「高砂」、20日ブルターニュ大公城で子供のためのワークショップ、21日大人向けのワークショップおよびアンジェー=ナント・オペラ座での「土蜘蛛」が上演

公益財団法人山本能楽堂（大阪）

1,440,000円（11,149ユーロ）

★ 広島国際映画祭2017 23

2017年11月24日から26日まで開催の広島国際映画祭への助成。フランス関連プログラムとして、シネマテーク・フランセーズとの共同企画である国際修復映画祭「すべての世界の記憶」から厳選した6作品と、短編映画祭「コテ・クール」にちなんだ短編3本が上映、それぞれの映画祭のディレクター、ポリヌ・ドゥ・レイモンドとジャッキー・エヴラールが招聘

広島国際映画祭実行委員会（広島）

1,500,000円 (11,514ユーロ)

フランス少年少女合唱団日本ツアー 24

2017年4月3日から11日まで、38人からなるベルサイユのジャン＝フィリップ・ラモー少年少女合唱団が日本を訪れ、東京の日仏会館や東京国立博物館での公演を皮切りに、岐阜のサラマンカホールでは地元の子供合唱団と合同演奏、次いで奈良市ならまちセンターで上演

メルト・イン・ポット・プロダクション（ベルサイユ）

12,000ユーロ (1,476,715円)



★ アンスティチュ・フランセ日本とのパートナーシップ

「映画プログラム2017」 25

「スクリーンで見よう!マイ・フレンチ・フィルム・フェスティバル」 「第20回 カイエ・デュ・シネマ週間」 「『午後8時の訪問者』公開記念 ダルテンヌ映画の女性たち」 「米国アカデミー賞公認 国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル&アジア」セレクション~短編映画で描く人生の悲喜こもごも~」 「シネ・リセ中高生向け講座」 「フランス・ドキュメンタリー映画 その遺産と現在」 「ジャン＝ピエール・メルヴィル生誕100年記念イベント」 「ショートショートフィルムフェスティバル&アジアセレクション~短編映画で描く悲喜こもごも~Vol3」 など年間プログラムへの支援

アンスティチュ・フランセ日本（東京）

2,000,000円 (16,607ユーロ)

ポンピドゥーセンター・メスへ日本が名誉招待 26

2017年9月8日から2018年5月14日まで、ポンピドゥーセンター・メスは日本シーズンとして、3展示会、10公演を実施し、近代建築から現代アートまで日本に関する新しい視点を提示。財団は「#10イヴニング」シリーズを支援

ポンピドゥーセンター・メス（メス）

50,000ユーロ (6,403,500円)



学術・シンポジウム・調査研究

★ ファラド・コスロカヴァール教授の招聘 27

フランス社会科学高等研究院（EHESS）研究部長のファラド・コスロカヴァール教授を招聘し、2017年10月11日に帝京大学霞ヶ関キャンパスにて講演会、10月12日に笹川平和財団にて専門家会議、10月16日に京都の同志社大学にてセミナーを実施。

帝京大学 教授 池村俊郎（東京）

300,000円（2,303ユーロ）

★ テオドル・テック調査研究 28

1800年代後期に活躍したフランスの陶芸家テオドル・テックが日本の伝統工芸から受けた影響について、陶磁器、中でも特に古九谷に焦点を当て、影響を与えた陶磁器の特定、その陶磁器に出会った背景等を調査、研究。その成果が月刊誌『目の眼』に掲載

柴田雅章&アニー（名古屋）

440,000円（3,575ユーロ）

★ メネストレル国際シンポジウム 29

中世研究の国際ネットワークを展開するために設立された研究グループ、メネストレルが初めて日本で開く中世研究会議への助成。2017年11月17日から19日まで、奈良の大和文華館において若手研究セミナー「中世学のネットワークとツール」とシンポジウム「中世における文化交流ー対話から文化の生成へー」が開催され、日本、フランス、オランダ、イギリスの研究者23人が参集

メネストレル日本部門担当 田辺めぐみ（大阪）

500,000円（3,904ユーロ）



★ セミナー「ケアの社会」 30

日仏の「ケア」の変遷を分析すべく、2017年3月16日にパリ日本文化会館で開催されたセミナー「ケア、すなわち他者への配慮について考える」への助成。マリーズ・ブーローニユ=ガルサン（AP-HPパリおよびパリ郊外にある公立病院）、フィリップ・モセ（LEST労働経済社会学研究所）、ファビエンヌ・ブリュジェール（パリ第8大学）、原山哲（東洋大学）、山下りえ子（東洋大学）ら、日仏の研究者5人によって、第一部では、フランスと日本の在宅ケアの看護師たちの状況と声が提示、第二部では、「ケアの社会」の構想について議論

東洋大学 教授 山下りえ子（東京）

475,354円（3,929ユーロ）

第17回日仏海洋学シンポジウム 31

2017年11月7日から10日までボルドーで開催された第17回日仏海洋学シンポジウムへの助成。テーマは「海洋・沿岸環境におけるシステム変化、並びにその生物学的多様性」と「自然要因及び地域人的活動による気候変動の影響」で、小池康之教授、畠山政則氏、山内宏泰氏、田中丈裕博士など著名な日本人研究者が招聘

日仏海洋学会（マルセイユ）

8,000ユーロ（963,520円）

京都大学/パスツール国際合同研究ユニット 32

京都大学とパスツール研究所が作る国際合同研究ユニットの感染症研究への助成。2つの研究プログラム、インフルエンザウイルスに関する研究と日本固有の Dengue 熱のケーススタディが実施

一般財団法人日本パスツール財団（東京）

20,000ユーロ（2,561,400円）

[2018年6月30日時点で契約額20,000ユーロのうち15,000ユーロ支払済]



教育・研修・交流

★ 2017年フランス・グランゼコール交流会 34

インターンとして来日中のグランゼコールを中心とするフランスの学生と日本の学生や若手社会人の交流を目的として、シンポジウム「フランス若手向けシンポジウム－日本は就職・起業・研究のチャンスの宝庫－」が2017年6月24日に、将棋交流会「フランス人と将棋を指そう！」が7月1日、7月15日、8月5日に実施

Santé! Les échanges entre la France et le Japon (東京)

299,325円 (2,846ユーロ)

福島とフランスの高校生交流 35

フランス人高校生7人と引率者2人が福島の高校生12人と教員3人が2017年7月30日から8月7日まで日本に滞在し、原発事故後の放射能対策について学習、ワークショップで発表。

核関連防護度評価研究センター (フォントネー・オ・ローズ)
4,000ユーロ (481,760円)



ブルゴーニュ公のフレスコ画制作 36

高橋久雄がフレスコ画の技法を伝授するため、2017年7月29日から8月13日まで、6人の大学生がオータンを訪れ、ユルスリーヌ塔にブルゴーニュ公を描く壁画を制作

ユルスリーヌ国際文化センター (オータン)

6,000ユーロ (768,420円)

パリ・アール・デコ美術館でのワークショップ 37

アール・デコ美術館の収蔵品で、1878年パリ万博のために購入された、16枚の金属製パネルがはめ込まれた黒柿製の衝立修復のための支援。購入以来、木枠部分の状態が劣化しており、これを修復するために伝統工芸士の白井浩明、崔鍊秀氏を招聘し、ワークショップを実施

アール・デコ美術館 (パリ)

8,000 ユーロ (1,024,560円)

[2018年6月30日時点で契約額8,000ユーロのうち6,400ユーロ支払済]

アール・デコ (フランス国立高等装飾美術学校)

・京都市立芸術大学の学生交流(9頁参照)

パリ・アール・デコのイマージュ・アンプリメ科と京都市立芸術大学ヴィジュアル・デザイン科との交流15周年を記念して、アール・デコの学生18人と引率教員2人が2017年5月13日から26日まで日本を訪問。「輪・サークル」をテーマにして、あらかじめ両校の学生が制作した作品を、まずはSNSでやりとりした後、次に実際に共同作業を進め、さらに作品を深めていくプロジェクト

京都市立芸術大学ヴィジュアル・デザイン科 (京都)

1,033,255円 (8,579ユーロ)

出版・コミュニケーション・メディア

ドキュメンタリー『東尋坊』 38

ブレイズ・ペラン監督『東尋坊、夜を待ちながら』のポストプロダクションへの助成。東尋坊で自殺を図ろうとする人々を救うため、人生を捧げた元警察官、茂幸雄の活動を描く。

TSプロダクション (パリ)

4,000 ユーロ (481,760 円)

カズヤ・モリモト『ある画家のヨーロッパ旅行記』 39

クレルモン=フェラン第18回紀行フェスティバル「ランデブー・デュ・カルネ・ド・ヴォヤージュ」で発表されたカズヤ・モリモトの作品集を日英仏の3カ国語版で出版。

アキノメ出版 (パリ) / 2017年11月 / 207頁

5,000 ユーロ (640,350 円)

* ジャンヌ・ベム著、柏木加代子訳

『フロベール、コンテンポラリーなまなざし』 40

フロベールの作品に関する著作で世界的に著名な研究者、ジャンヌ・ベムの著作を京都市立芸術大学名誉教授の柏木加代子の翻訳で出版。フロベールの小説と現代のビジュアル・アートとの密接な関係について新しいアプローチを提示

水声社 (東京) / 2017年6月 / 240頁+別丁4頁

710,000 円 (5,895 ユーロ)

富谷昌子作品集『帰途』 41

38枚の写真と富谷昌子自身のエッセーからなる本。カバーデザインはサツキ・シブヤ

ショーズ・コミュニケーション出版 (パリ) / 2017年6月 / 80頁

6,500 ユーロ (782,860 円)

* 瀬藤澄彦著『フランスはなぜショックに強いのか』 42

このショックに強いフランス経済を社会、文化、空間、政治などの概念を動員し多角的に描き、今まで日本でほとんど語られてこなかったフランスの経済に光をあてた書

文真堂 (東京) / 2017年6月 / 300頁

800,000 円 (6,642 ユーロ)

ブリジッド・小山 = リシャル著『日本の幻想芸術としてのヨーカイ (妖怪)』 (20頁参照)

フランスの読者に向け、ふんだんに図像を用いて「ヨーカイ」の世界を紹介

レ・ヌーヴェル・エディション・スカラ (リヨン) / 2017年10月 / 256頁

10,000 ユーロ (1,204,000 円)

* 柴田依子著『和歌と俳句のジャポニスム』 43

21世紀初頭にポール・ルイ・クーシューが俳句だけでなく和歌に関する紹介・翻訳も積極的に行い、歌曲の分野にも多大なる影響を及ぼしていたことなど、文学以外の分野への影響も含めて多角的に考察

角川文化振興財団 (東京) / 2018年2月 / 216頁

1,430,000 円 (11,166ユーロ)

財団の広報活動

ウェブサイト、ニュースレターの作成など。

笹川日仏財団自主事業—パリ本部

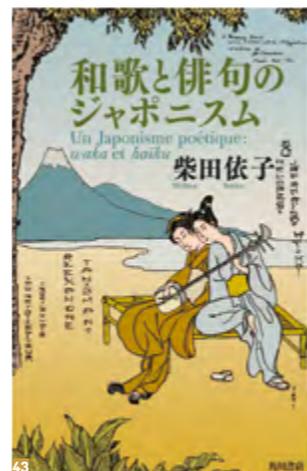
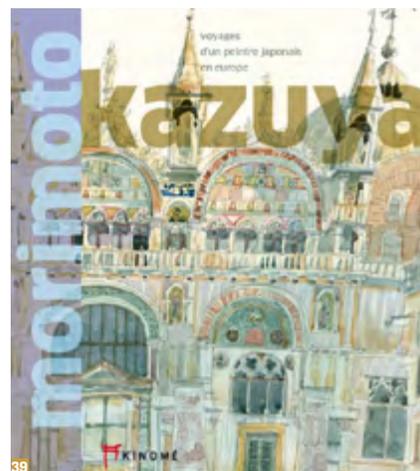
15,000 ユーロ (1,921,000円) [予算承認額]

フランス国立ギメ東洋美術館 (ギメ美術館) デュボワ博士写真コレクションの活用 (22頁参照)

ギメ美術館写真部門のデュボワ博士写真コレクションの資料整理、保管収蔵、電子カタログ作成への助成

フランス国立ギメ東洋美術館 (パリ)

15,800ユーロ (1,944,342円)





MUSÉE
DE LA
LAVANDE

南仏プロヴァンス・クステレ村のラベンダー博物館



ナンシー派美術館に展示されているアール・ヌーヴォーの家具

助成金の申し込み方法

個人、法人を問いません。

フランスに在住している個人、法人からの助成の申し込みはパリ本部が、日本在住の個人、法人の申し込みは東京事務局が受け付けています。

申請のための特別な書式はありませんが、次の項目を盛り込んだ文書をご送付ください。

- 1) 申請者名、所属機関名、申請者および担当者の連絡先
- 2) 申請目的、事業名、事業の概要
内容、対象人数、期間、実施場所など
- 3) 事業の目的、意義、期待される効果
800字程度
- 4) 収支予算および助成希望金額
内訳、積算根拠を添えてください。
また、他の助成団体にも申請している場合は、その旨を書き加えてください。
- 5) これまでの活動実績
- 6) その他参考となる資料

春と秋の年2回の理事会が審査の上、決定します。申請は随時受け付けていますが、春の理事会は1月末、秋の理事会は7月末がご応募の締め切りとなります。

申請にお応えできない場合は、速やかにその旨をご連絡します。さらに検討をさせていただきたい場合は、必要に応じて追加資料の提出をお願いする場合があります。

助成をお断りしているプロジェクト

- ・純然たる個人目的、商業目的、営利目的のもの
- ・建築または土地、建造物などの取得、維持、保存などを目的とするもの

会議室の貸し出し

日仏に関わる活動を行なっている方々を対象に、財団のパリ本部事務所の会議室（席数15）を無料にてお貸し出しいたします。

会議室は助成金交付の有無に関わらず、プロジェクトの作業や打ち合わせのためにお使いいただけます。ご利用をご希望の方は、電話あるいはメールにてご予約ください。空室状況によりご利用いただけます。

会議室のご利用には、そのプロジェクトが日仏関係の発展に寄与すること、騒音を立てず静かに作業すること、職員に配慮し、施設を大切に扱い、時間を厳守することが要件となります。

お問い合わせ／ご予約

電話 +33 (0)1 44 39 30 40

電話受付時間 平日9:30～12:30、14:30～17:30

メール info@ffjs.org

パリ本部所在地

27, rue du Cherche-Midi, 75006 Paris

付帯設備

ビデオプロジェクター、スクリーン、ホワイトボード

財務の推移

	基本財産	資産合計	流動資産	決算額
2016	24,073,755ユーロ	25,571,438ユーロ	24,895,095ユーロ	20,336ユーロ
2017	24,093,755ユーロ	25,674,497ユーロ	25,033,158ユーロ	189,497ユーロ
合計	1,999,427ユーロ	20,539ユーロ	830,135ユーロ	860,906ユーロ

	運用収入	金融費用	管理費 (減価償却費を除く)	事業額
2016	978,376ユーロ	11,980ユーロ	433,719ユーロ	479,455ユーロ
2017	1,021,051ユーロ	8,559ユーロ	396,416ユーロ	381,451ユーロ

事業主催者の皆さま、事業に参加された皆さま、そして日本とフランスの友好を豊かにし発展させることに情熱を傾け、ご尽力いただきましたすべての皆さまに対し、笹川日仏財団より厚く御礼申し上げます。

写真クレジット

p. 2 伊藤朋子 / p. 3 フェランテ・フェランティ / p. 6-7 エリック・モレ、不許複製・禁無断転載写真 (以下、DR) / p. 8 伊藤朋子 / p.9-10 エリック・モレ / p.11 橋口譲二、Badische Zeitung紙、ブリジット・アンゲラン、DR / p. 12-13 DR / p. 14 伊藤朋子、東北風土マラソン&フェスティバル、メドック・マラソン / p. 15 DR / p. 16-17 山本能楽堂 / p. 18 DR / p. 19 DR、伊藤朋子 / p. 22-23 MNAAG (フランス国立ギメ東洋美術館) / p. 24 伊藤朋子 / p. 26 クレール・ド・ヴィリユール / p. 27 アンステイチュ・フランセ日本-東京、NPO音楽の木、DR / p. 28 DR、YPF / p. 29 DR、VTCMA37 / p. 30 関矢昌宏、アンステイチュ・フランセ日本 / p. 31 DR / p. 32 エリック・モレ / p. 34 DR / p. 35 DR / p. 36 おおぶ文化交流の杜、DR、Mdm Japon / p. 37 Citu Autun / p. 38 エリック・モレ / p. 39 伊藤朋子 / p. 40-41 : 伊藤朋子 / p. 42 DR、川内倫子 / p. 43 フレデリック・クーヌ、伊藤朋子 / p. 44 DR、フジセーヌ・フランコフォン、to R mansion、インディエーターキョー / p. 45 オリヴィエ・セヴェール / p. 46 カンパニー・バラボルカ、スターリン・エルメンドルフ、DR / p. 47 グレゴリー・バトルドン、片岡陽太 / p. 48 青木司 / p. 49 YPF / p. 50 広島国際映画祭、アンステイチュ・フランセ日本 / p. 51 ジャン=フィリップ・ラモー少年少女合唱団 / p. 52 笹川平和財団、ウンターリンデン美術館、伊藤朋子、パリ日本文化会館 / p. 53 DR、伊藤朋子 / p. 54 伊藤朋子、CEPN / p. 55 高橋久雄、エリック・モレ / p. 56 DR / p. 57 バリーズ・ペラン / p. 58-59-60-64 伊藤朋子

連絡先

パリ本部

エリック・モレ (次長)
マリ=ジョゼ・ラルマン (秘書)
27 RUE DU CHERCHE-MIDI,
75006 PARIS
TEL +33 (0)1 44 39 30 40

東京事務局

伊藤 朋子 (局長)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-15-16
笹川平和財団ビル5F
TEL +81 (0)3 6257 1841
FAX+81 (0)3 6257 1842

WWW.FFJS.ORG

編集責任

フランス エリック・モレ
日本 伊藤 朋子

校正

フランス トマ・ラムット

グラフィック・デザイン&制作

アトリエ ジュリアヌヌ・コルデス、
コリーヌ・デュリ

日本語版制作

LSD.AGENCY

印刷

SNEL (ベルギー・ヴォッタン町)

ISSN : 2610-4342

2018年10月発行
2018年10月法定納本





ル・コルビュジエ設計によるロンシャンの礼拝堂





田淵 彩花・AYAKA TABUCHI



岡崎 安祐・AYU OKAZAKI



庄子 香織・KAORI SYOJI



下間 健司・KENJI SHIMOTSUMA



ADRIANA PÁRAMOS DE PAZ



ALICE DURAND WIETZEL



ALZBETA WOLFOVA



ANAÏS LACOMBE



CARINE PRACHE



三岡 真亜矢・MAAYA MITSUOKA



上田 まりあ・MARIA UEDA



高石 瑞希・MIZUKI TAKAISHI



伊藤 奈緒子・NAOKO ITO



CLAIRE MEINHARD



CLAUDIA REGUEIRO PUIGDEVAU



EMANUELE RACCA



ENZO MINARRO



IVAN DUBOIS PETROFF



古田 咲・SAKI FURUTA



瀬口 優和・YUWA SEGUCHI



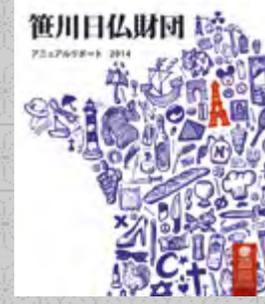
JOSEPH SCHIANO DI LOMBO



LOU DERVIEUX



MANON LE SQUER



MATHIAS MENDEZ



MIYUKA SCHIPPER

他の学生の作品もご覧ください



DÉCOUVREZ LES AUTRES PROJETS DES ÉTUDIANTS...

提携のご紹介

本報告書の表紙2点は、当財団の発案により京都市立芸術大学、パリ国立高等装飾美術学校（アール・デコ）との提携により実施した、2016年度のコンクール受賞作品です。
コンクールの課題として、アール・デコのイメージ・アンプリメ科3年生と京都市立芸術大学ヴィジュアル・デザイン専攻4年生に出したのは「自分の国の今を描き紹介すること」。
応募作品の中から表紙を飾る最優秀作品を日本とフランスから1点ずつ選び、優勝者には賞金としてそれぞれ1,000ユーロを贈呈しました。そのほか4点（各校2点）が入賞し、各受賞者に250ユーロが贈られました。
熱意を持って参加してくれた生徒たちに感謝するとともに、アール・デコのグザヴィエ・パンゴー先生と前田宏先生、京都市立芸術大学の辰巳明久先生に感謝申し上げます。



PHILIPPINE BRENAC



ROMAIN TASZEK



SAMUEL GROS



FONDATION
FRANCO
JAPONAISE
SASAKAWA